

令和3年2月定例市議会

施政方針

和歌山市

ただいま上程されました諸議案の審議をお願いするに当たり、私の市政に対する所信の一端と、国の3次補正による前倒し分を含んだ令和2年度の補正予算と令和3年度当初予算の大綱を申し述べ、市民の皆様、議員の皆様のご理解とご協力を賜りたいと思います。

(新型コロナウイルス感染症に関する現状)

世界中に感染が拡大した新型コロナウイルス感染症により、私たちの生活スタイルは一変しました。働き方、余暇の過ごし方、そして人との関わり方など、これまでの「当たり前」が崩壊し、「新しい日常」が当たり前になりました。

コロナ禍でも、市民が安心して暮らせる日常を取り返す。その一念で、これまで「感染拡大防止」と「地域経済の回復」という2つの目標をもって、様々な施策を講じてきました。しかしながら、現在もまだ新型コロナウイルス感染症の脅威は続いており、予断を許さない状況に変わりはありません。

(令和3年度予算のポイント)

令和3年度予算は、新型コロナウイルス対策を優先しつつ、地方

創生の新たな潮流をまちの持続的発展につなげ、市民の皆様へ安心を届けるという強い思いから、「暮らしを守り、未来へ希望をつなぐ予算」と位置付けて予算編成を行いました。

本市の社会増減については、昭和49年にマイナスに転じて以来、長らく転出超過が続いてまいりましたが、これまでのまちづくりの結果、令和元年には、子育て世代を中心に転入超過となり、45年ぶりに全体としても転入超過に転じました。残念ながら、新型コロナウイルスの感染が拡大した令和2年には、再び転出超過に転じましたが、他方で、首都圏では地方移住への関心が高まるなど、地方分散型社会への転換の兆しが見えつつあります。また、後期高齢者数がピークを迎えるとされる2025年、高齢化率が急激に高まり、現役世代が大きく減少するとされる2040年を見据えた支え合いの共生社会など、令和3年度は新型コロナウイルス感染症を踏まえた新しい時代にも柔軟に対応できる施策に取り組む必要があります。こうした時代の大きな変革に対応すべく、新型コロナウイルス感染症対策に加え、3つの政策に重点を置いて施策を進めてまいります。

1つ目は「人・仕事」の地方への動きを後押しする「新たな人口政策」、2つ目はあらゆる面で互いに支え、助け合える「支え合い

の共生社会」、3つ目は新しい時代の流れを力にする「デジタル化の推進」。これらを柱に第5次和歌山市長期総合計画の分野別目標に沿って、施策を網目状に展開してまいります。

(日常を取り戻すコロナ対策)

1年前の今頃、まさに本市においても感染拡大の波が押し寄せました。見えない恐怖のなか、長きにわたり対応に当たられているすべての関係者の皆様に、改めて御礼を申し上げます。特に、新型コロナウイルス感染症対策にご協力いただいている医療従事者の方々に対して、心から感謝いたします。

市民の不安解消のため、相談窓口の充実や介護施設等における感染の未然防止対策を講じるとともに、感染対策として、PCR検査費用等に係る自己負担分を公費負担し、加えて、新型コロナウイルス感染症の疑いのある患者の診療に従事した医療関係者に慰労金を給付します。また、新型コロナウイルス感染症により深刻な影響を受けた事業者の方々に対しては、国の実施する事業再構築促進事業を活用し、特に困っている中小企業者の方々に上乘せ支援を行うことで、事業の存続を後押しし、倒産の抑止につなげます。

今後も、一日も早い感染の収束に向けて、感染状況に応じた保健所体制の強化に取り組めます。感染拡大に歯止めをかける切り札として大きな期待が寄せられているワクチンについては、納入され次第速やかに接種できるよう、準備を進めているところです。安心と希望に満ちた「かけがえのない日常」を取り戻すべく、全力で取り組んでまいります。

◆安定した雇用を生み出す産業が元気なまち

次に、長期総合計画の4つの分野別目標に沿って説明します。

1つ目は、「安定した雇用を生み出す産業が元気なまち」です。

テレワークやサテライトオフィスなど、新型コロナウイルス感染症の影響下で浸透し始めた新たな働き方に取り組む企業や個人を呼び込む施策を展開するとともに、ブランディングによる高付加価値化や国内外への販路拡大を通じた市内産業の競争力強化と持続的な発展を推進します。

密を避けながらも一年を通して継続的に交流人口の増加につなげ、ひいては関係人口の増加を図ることのできる観光施策を展開すると

ともに、本市の各観光地が持つ魅力を更に向上させるための取組を推進することで、市外からの観光需要を喚起すると同時に、市民の愛着の醸成にもつなげてまいります。

(新時代における産業の持続的発展)

今般の企業の地方進出意欲の高まりや、働き方そのものの変容を契機と捉え、本市の定住人口増加にもつなげていくため、移住に重点を置いた企業誘致の強化を図ります。サテライトオフィス等として提供する施設の整備に対する補助制度を創設するとともに、本市に企業を誘致するための企業立地促進奨励金について、大規模な人口移動や雇用を伴う立地に対する雇用奨励金の限度額をこれまでの4,000万円から1億円まで大幅に引き上げるほか、オフィス奨励金の対象地域を市街化区域全域まで拡大するなど、本市に人を呼び込むための施策を推進してまいります。

市製品の競争力を高め、「メイドイン和歌山」を国内外に広げていくため、市内企業の製品開発、改良及びPRに対する支援を行うとともに、展示会への出展や輸出手続に対するサポートを強化し、販路拡大を後押しします。併せて、就職・UIJターンを支援し、

本市での就労につなげていくための取組として、わかやま就職応援プロジェクトを推進し、不安定な情勢のもとでも安定した就職・雇用を生み出すことができるよう、人材と企業のマッチングを図ります。また、多様な働き方を取り入れながら就職する女性を支援し、より一層の活躍を推進するための取組を進めます。

農・水産業においては、将来を支える担い手の育成と支援に取り組み、従事者の増加を図るとともに、農・水産物の産地化やブランディングを推進し、高付加価値化を進めることで、人を育て、よいものを育てる強い農・水産業づくりを目指します。

中央卸売市場について、現在工事中の水産棟など、無駄のない効率的なスペースで、コールドチェーン形成のための温度管理が可能な施設への再整備等を進めるとともに、流通に関するデジタル推進に取り組むことで、流通機能の合理化を図ります。また、令和2年に完成した総合食品センター棟「わかやままるしえ」の活用や、再編時に生まれる余剰地の活用に係る検討を推進することで、みなとオアシス和歌山水軒ゾーンのにぎわい拠点の創出を目指してまいります。

(継続的な「和歌山ファン」の獲得)

新型コロナウイルス感染症の影響下での観光施策として、密を避けながらも交流人口や関係人口を拡大し、将来的な定住人口の増加につなげることのできるオールシーズン分散型観光を推進します。サイクリング等の通年型アクティビティに加え、食や温泉、歴史・文化、アートといった、一年を通して楽しむことのできる資源を活用し、更なるコンテンツの造成や魅力向上を図ることで、継続的な誘客促進につなげてまいります。併せて、市内各所のライトアップやイルミネーション等を通じた夜間の魅力向上、ナイトタイムエコノミーの推進等により、夜間や冬季閑散期の誘客と消費拡大を図ることで、交流人口の増加につなげてまいります。

市内各観光地について、その特色を生かした取組を通じて魅力を向上させ、主に京阪神を中心として交流人口や関係人口の増加を目指すとともに、B to Bによるインバウンド誘客の促進にもつなげます。併せて、マイクロツーリズム、いわゆるご近所観光を推進することで、市民による本市の魅力の再発見や愛着の醸成にもつなげてまいります。

724年（神亀元年）、聖武天皇に随行した山部赤人が「若の浦

に潮満ち来れば潟をなみ葦辺をさして鶴鳴き渡る」と歌に詠んでから、まもなく1300年を迎える和歌の浦では、歴史的風致あふれる景観の形成を推進します。道路の無電柱化や明光通りの再生に向けた民間主体の活性化戦略を推進するなど、まち全体を通して、訪れた人々が歴史文化的魅力に触れられるような風致の醸成に取り組みます。

歴史や文化など、観光的にも魅力豊かな加太地域に、友ヶ島を出発点とする日本遺産「葛城修験」という、新たな魅力が加わりました。修験道や構成文化財を紹介・解説するための看板等を作成するほか、民家の玄関先に提灯を掲出し、伝統建築物等をライトアップするなど、統一感のあるまちなみを演出することで、より一層歴史と文化で彩られ、情緒あふれる地域の形成を図ります。

令和2年にオープンした道の駅「四季の郷公園」について、様々な魅力が融合する「食×農×体験」の拠点として、観光客の周遊促進や消費拡大、地産地消の推進等につなげられるよう活用を推進するとともに、令和4年のリニューアルオープンに向け、更なる魅力アップのための整備を進めます。

I R (統合型リゾート) の誘致と最大の効果発現に取り組みます。

先月、県に事業者２者からＩＲ事業の提案書類が提出され、現在、県の事業者選定委員会の審査手続中であり、この春頃に事業者が選定されます。

ＩＲの実現は、本市に大きな経済波及効果や雇用を創出し、その効果はまちなかを含む市内全体にも波及します。ＩＲを本市の発展につなげられるよう、今後とも県と連携し取り組むとともに、説明会等により市民の皆様にご理解いただけるよう努めていきたいと考えています。

これらの取組により、「和歌山ファン」ともいうべき関係人口の増加にもつなげてまいります。

◆住みたいと選ばれる魅力があふれるまち

２つ目は、「住みたいと選ばれる魅力があふれるまち」です。

新型コロナウイルス感染症の影響下で生じた地方分散の流れを契機と捉え、新たに立ち上げる移住定住戦略課を中心に、テレワークを軸とした近隣都市圏から移住する方や、起業など新たなスタートを切る方に向け、本市の強みを生かした移住施策を展開してまいり

ます。

これらに加え、官民の力を合わせたまちの活性化や、本市の豊かな自然や歴史、文化を未来に継承していくための取組、更には、福祉や教育といった、よりよい暮らしに必要な施策を総合的に進め、住みたいと選ばれる魅力あるまちを実現することで、着実な定住人口の増加につなげてまいります。

(ライフスタイルに合わせた地方移住の提案)

I T技術の発達、新しい生活様式の浸透によって、働く場所、暮らす場所は必ずしも大都市圏でなくてもいいという価値観の変容がもたらされ、地方への人の流れが生まれつつあります。そういった時代の潮目を捉え、ワーケーションの導入やテレワークの促進に係る取組を推進し、様々なライフスタイルに合わせ地域の特色を生かした暮らしを提案します。

本市への移住者に対する支援金について、対象地域を拡大し、全国どこからの移住でも交付可能な新制度を創設するほか、従来の東京23区からの移住者に対する支援金についても、テレワーカーや同区域への通学者、本市の関係人口と認められる方などに対する条

件緩和を行います。移住を検討されている方を後押しし、併せて魅力の発信や受入体制の整備を推進することで、本市の定住人口増加につなげてまいります。

(にぎわいと魅力あふれるまちづくり)

昨年、キーノ和歌山、新市民図書館など、にぎわいの核となる交流拠点が完成し、更には、今春、新たに2大学が開学し、まちなかに5つの大学が揃います。これまでの取組で蒔いた活性化の種がまちなかに芽吹き始めました。これらのにぎわいを更に育て、中心市街地全体に伝播させていくため、本市のふたつの玄関口である南海和歌山市駅、JR和歌山駅周辺の更なる活性化を図ります。誘致した大学や新たな拠点が生み出すストック効果を最大限活用することで、行政による取組に加え、民間活力による活性化の誘起を図ります。

令和3年秋、和歌山城ホールが完成します。市民の文化芸術活動を発信する場、にぎわいの文化交流拠点としての活用を推進するとともに、和歌山城に隣接した、紀陽銀行中央ビル跡地及び市役所南側から和歌山城ホール一帯に生まれる新たな都市空間や、和歌山城

がきれいに見える市道中橋線などとともに、まちあるき空間として一体的に整備し、飲食店舗やキッチンカーによる食べ歩きを楽しんでいただくなど、誰もが歩きたくなるような魅力あるまちなかの形成を目指します。

本市のシンボルといえる和歌山城では、紀州徳川家の居城であったかつての姿を再現するための取組を推進します。引き続き、天守閣の整備に係る検討を深めつつ、扇の芝の整備や大名行列の再現などに取り組むことで、これまで以上に魅力輝く和歌山城の整備を着実に進めてまいります。

市内各地域において、官民連携のもと、空き家、空き店舗など、遊休化・余剰化している空間資源を積極的に発掘し、再生・活用を図ることで活性化につなげていくとともに、各地域の特性を生かした住民主体のまちづくり活動への支援等を通じ、個性と魅力あふれる地域づくりを推進することで、愛着を育むことのできる魅力あるまちの形成につなげます。

(未来へとつなぐ豊かな暮らしの形成)

2021年を「文化の年」と位置づけ、文化に触れ、体験し、継

承していくための取組を推進してまいります。夏には、文化部のインターハイと呼ばれる、全国高等学校総合文化祭「紀の国わかやま総文2021」が、秋には、日本最大の文化の祭典である、国民文化祭及び全国障害者芸術・文化祭「紀の国わかやま文化祭2021」が和歌山県で初めて開催されます。ふたつの文化の祭典への参加などを通じて、広く市民に文化の裾野を広げるとともに、本年秋に完成する和歌山城ホールを拠点に、日本全国に和歌山市の自然・文化・歴史・食などの魅力を発信します。

併せて、有吉佐和子邸の復元や和歌祭400年に向けた準備など、先人たちの築きあげてきた歴史と文化を継承し、その魅力を再発見するための取組を推進することで、市民が心の豊かさを実感することができ、市外の方にも愛着を感じてもらえるようなまちづくりを進めてまいります。

海洋プラスチックごみの調査やリサイクルの推進、小学校での授業などの次世代啓発活動等、民間企業と連携したSDGsを推進するとともに、全世代が、「海の豊かさ」を守る重要性を体験できるイベントを開催します。また、循環型社会の形成に向け、資源のリサイクルの推進やごみの減量化に継続して取り組むことで、環境に

やさしい社会を目指します。

先日、和歌山ジャズマラソンが、「日本遺産『絶景の宝庫和歌の浦』をめぐる！日本初のミュージックマラソン」として「スポーツ文化ツーリズムアワード2020」日本遺産ツーリズム賞を受賞しました。第20回を迎える今回からは、ハーフマラソンのスタート地点を和歌山城周辺に移し、より一層和歌山市の魅力を知っていただける大会を目指すとともに、スポーツによる交流拠点の整備等を推進することで、スポーツに接し、参加する機会の創出につなげます。体を動かし、心を動かすことで、市民が健やかで明るく、豊かな生活を享受できるような取組を進めてまいります。

◆子供たちがいきいきと育つまち

3つ目は、「子供たちがいきいきと育つまち」です。

市民が「子育てに温かいまち」と誇れる、市外の若者や子育て世代から「子育てしたいまち」として選ばれる、子育て世代等のニーズに寄り添った取組を推進し、子育て環境日本一を目指します。

安心して子供を産み育てられる環境づくりに欠かせないきめ細か

な支援の積み重ねを続けるとともに、待機児童解消への取組を進めます。また、こども医療費助成制度の拡充など子育てにかかる経済的負担の軽減を図り、子供たちの健やかな成長を支援するとともに、新しい時代に即した学びのイノベーションや読書活動の推進等により、子供たちの深い学びと安全・安心で快適なスクールライフの実現を目指してまいります。

(子育て環境日本一に向けた取組)

結婚、妊娠、出産、育児、子育ての各段階に応じたきめ細かな対策を総合的に推進するため、引き続き子育て世代包括支援センターが中心となり、切れ目のない支援を行ってまいります。結婚を望む市内の独身の方々が安心して出会いの機会を持てるよう、新たにお見合い型の出会いを応援する事業を実施します。

昨年春に開園した本市初の公立認定こども園の整備等により、保育の受け皿確保を進めていますが、引き続き、保育を必要とする児童に適切な保育が提供されるよう、定員の維持・増加の働きかけや保育士の育成と市内就職につなげていくことで、待機児童の解消を図ってまいります。

すべての子供の健やかな成長に向け、こども医療費助成制度の所得制限撤廃に向けたシステム改修を行い、令和4年8月の改定期間に合うよう取り組むとともに、不妊治療対策や就学援助の充実など、経済的負担の軽減を図ります。コロナ禍で子供の見守り機会が減少し、児童虐待のリスクが高まっていることから、こども総合支援センターの機能強化を図ります。子供食堂などの民間団体との連携により、支援ニーズの高い子供を定期的に見守る体制を確保するとともに、小児精神科医の助言を通じた相談援助の充実を図ることで、児童虐待の未然防止や早期発見・早期対応につなげます。年々、増加傾向にある日本語支援を要する児童生徒に対する支援も強化します。日本語支援ボランティアを配置し、学校・家庭間の連絡や授業中のサポート等を行うとともに、不安を抱える児童生徒に対しては、母語での教育相談が行えるよう外国人留学生を派遣し、円滑な学校生活の実現を支援してまいります。

(新しい学習・教育)

教育環境の更なる充実に取り組みます。国において、公立小学校の全学年で1学級の児童数の上限が35人に引き下げられることと

なり、令和7年度を目途に段階的に導入されることになりました。本市では既に小学1、2年生で導入されており、少人数学級編制によるきめ細かな指導を更に深めてまいります。

中学校における全員給食実施に向け、学校給食に係る様々な課題の調査を開始します。小規模特認校制度の導入は、学校規模の適正化において学校統合の検討対象となる学校を地域に存続させることや小規模の良さを生かした特色ある学校づくりにつながるため、導入に向け検討を進めてまいります。また、学校・家庭・地域の連携のもと、家庭での教育力や地域における社会教育の充実を図ることで、子供たちの基本的な生活習慣の習得や自立心の確立を促してまいります。

GIGAスクール構想に基づく児童生徒1人1台のコンピュータ端末の整備を前倒しすることで、新型コロナウイルスの感染拡大などの緊急時においても学びを止めない環境を整備しました。今後はコンピュータ端末を活用したオンライン教育を対面授業と組み合わせ、何らかの緊急事態により全児童生徒が自宅待機となった際の完全オンライン型授業や、一部児童生徒が出席できなくなった場合のハイフレックス型授業など、新型コロナウイルスの感染状況に合わ

せて授業形態を柔軟に変更し、より質の高い教育につなげます。

教員のICT活用指導力を向上するため、教材コンテンツや授業実践を研究する教員チームを立ち上げました。今後、チームでは授業実践例の収集やオンライン教育の活用方法などの研修資料や活用手引書の作成を進め、ICTを活用した授業づくりの研修を実施し、創造性を育む学びの実現を目指します。

外出の自粛により、自宅で過ごす時間が増えるなか、読書の需要が高まっています。市民図書館のリニューアルもあり、来館者数は昨年12月末現在で約48万人を突破し、旧市民図書館の平成30年度実績と比較すると、1日平均で約4倍となっています。

市民図書館を拠点とした読み聞かせの実施や小学校への配本図書充実など、読書活動を推進するとともに、学校図書館を活用した学習活動の充実により、本を通じた心豊かで健やかな学びにつなげます。また、子供たちが安全・安心で快適な環境で学べるよう、小学校トイレの洋式化や給食室への空調設置を進めるとともに、老朽化が進む学校施設の適切な維持管理や学級数の増加による校舎増設など、教育環境の改善に取り組んでまいります。

◆ 誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち

4つ目は「誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち」です。

支え合いの共生社会に向け、高齢者等に対する相談・支援体制の充実を図ることで、暮らしに安心を届けるとともに、子育てや介護の問題が同時進行した場合など、複雑に絡む生活課題を円滑に解決へとつなげる重層的支援体制の整備等を進めます。

便利で暮らしやすい未来に向けた環境整備のため、ICT等を活用し、スマートシティの実現に向けた取組や行政のデジタル化等を推進します。また、多極型コンパクトシティを形成するために、次世代につながる持続可能な公共交通ネットワークを進めるとともに、人流と物流を支える道路網の整備を推進します。加えて、市民の安全・安心を確保するため、災害発生時に備えた体制等を強化するとともに、あらゆる関係者が協働してエリア全体で行う流域治水など防災対策を推進してまいります。

(便利で住みよい地域づくり)

AI・ビッグデータ等の先端技術を活用することで、便利で暮らしやすい未来都市の実現を目指します。民間事業者を含めたスマー

トシティを推進する協議会を設置し、具体的な事業プランの検討などスーパーシティ構想も視野に入れながら、スマートシティの実現に向けた取組を進めてまいります。

コロナ禍で急速に進むデジタル化に対応するため、庁内外のデジタル化推進の総括管理としてデジタル推進課を新設します。行政サービスの利便性を向上させるため、行政手続のオンライン申請や公金納付のキャッシュレス化を推進するとともに、窓口申請のデジタル化及び窓口の一元化等を検討します。

多極型コンパクトシティの形成に必要な公共交通ネットワークの強化の研究を進めます。I R誘致の実現を見据え、南海電気鉄道株式会社とB R T導入の研究を進め、次世代交通システムにつなげていきたいと考えています。B R Tを幹線軸とし、それを補完する路線につなげるなど、市内全体での利便性が向上されるとともに、観光客にも利用されることで安定した収益をもつ持続可能な公共交通となるよう検討してまいります。

平成28年度から京奈和・第二阪和連絡道路建設促進和歌山市議会議員連盟と力を合わせ、京奈和・第二阪和連絡道路の事業化について国に働きかけてきた結果、事業化に必要な和歌山環状道路の新

広域道路交通計画への位置付けに向けた検討が国において進んでおり、京奈和・第二阪和連絡道路の事業化に向け一歩進んだと考えています。今後も議員連盟の皆様とともに、京奈和・第二阪和連絡道路の早期事業化に向け取り組んでまいります。また、都市計画道路や通学路等の整備、橋梁等の長寿命化など道路の適正管理に努めます。さらに、配水管や下水道等の老朽化対策など引き続き生活環境のインフラ整備に取り組んでまいります。

(誰もが元気に活躍できる社会)

複雑化・複合化した生活課題に対し、相談者の属性や世代を問うことなく、課題解決に向けた包括的な相談支援を行います。個別制度の壁を低くすることで、縦割りの弊害を取り除き、介護、障害、子供、困窮といった各制度の連携を円滑にします。単独の機関では対応が難しいケースについて、新たに整備する多機関協働が中核となり、相談支援機関の役割分担や支援の方向性の整理、世帯を取り巻く支援関係者間の調整を実施します。また、必要な支援が届いていない方に対しては、アウトリーチ等を通じた継続的につながり続ける支援を行います。

さらに、その中核機能を担う多機関協働が、既存制度の様々な支援メニューの活用を促すとともに、既存の取組では対応できないような狭間のニーズに対応できるよう、本人のニーズを踏まえ、コミュニティカフェや子育てサロンなどの地域資源と本人との間を取り持つ総合的な支援機能を確保し、社会とのつながりを回復する就労準備支援や居住支援などの多様な「社会参加」を支援します。

加えて、多世代の住民同士が出会い、参加できる居場所の確保を図るとともに、支え合う関係性を広げ、交流・参加・学びの機会を創出することで、地域における絆を深め、地域の課題解決につなげる「地域づくり支援」を実施します。これら相談・参加・地域づくりという3つの支援を一体的に実施する重層的支援体制による支援を推進します。

誰もが住み慣れた地域で、心身ともに健康で自立した生活を送れるよう、安全・安心な暮らしに向けた支援体制の充実を図ります。季節性インフルエンザの流行期に備え、医療機関の協力により高齢者等へのインフルエンザ予防接種に係る自己負担の減額を行い、重症化予防等につなげるとともに、医療・介護等の各サービスが切れ目なく提供される総合的で包括的な支援体制を構築します。

障害者の方の利便性・安全性の向上を図るため、新たに「さんさんセンター紀の川」に屋根を備えた障害者用駐車場を設置します。今後も、高齢者や障害者の方々が安全で、安心して、快適に暮らすことができるバリアフリーのまちづくりを推進します。認知症が疑われる方々に対しては、居宅を訪問し、初期の支援を包括的かつ集中的に行う支援チームを配置します。また、健康寿命の更なる延伸に向け、特定健康診査の推進による生活習慣病の発症と重症化予防、大腸がん検診の受診率向上に向けたA Iを活用した受診勧奨など疾病予防を推進します。

インターネット上での誹謗中傷やいじめ等の人権侵害や新型コロナウイルス感染症に関連した人権侵害への対応など、人権が尊重される社会づくりを一層推進するとともに、男女共同参画社会の実現に向けた取組として、第5次行動計画の策定や女性の活躍推進に関する啓発などを実施します。

人と動物が共に幸せに暮らせる社会の実現に向け、動物愛護管理センターを強化します。猫の不妊去勢手術の対象を保護動物だけでなく地域猫にまで広げるとともに、譲渡数を増加させることで、不幸な猫を減らし、殺処分ゼロを目指してまいります。

(災害に強いまち)

異常気象が当たり前のようになり、激甚化する自然災害に備えるため、市民の暮らしの安全と安心を確保することができるよう、ハード・ソフトの両面から防災・減災対策を強化する必要があります。

災害時の情報伝達の強化として再整備を進めてきた防災行政無線、有事の際に全国からの緊急消防援助隊の受入拠点となる和歌山南スマートインターチェンジに直結した消防活動センターはいずれも令和3年度に完成しますが、今後とも災害時に迅速かつ的確に対応できるよう、災害対応訓練の実施や市民一人ひとりの防災に対する意識向上、災害の備えの強化に取り組んでまいります。

現在、河川の流域全体のあらゆる関係者が協働して流域全体で行う治水対策として「流域治水」への転換が図られています。紀の川においては、大規模な水害リスクに備えるため、これまで紀の川大堰に関する和歌山市議会議員連盟の方々と一緒に国に要望してきた結果、河道掘削、堤防補強等が実施され、課題となっている新六箇井堰の撤去についても部分的な切り欠きによる効果の検討が開始されることになりました。これらの治水対策に加え、ため池の改修などの農地防災対策や避難体制の強化に向けた住民参加の避難訓練の

実施など、国や県と連携し、流域治水の施策を推進することで、市民の命や財産を守るべく、安全・安心なまちづくりに取り組んでまいります。

以上が、令和2年度の補正予算を含めた令和3年度の予算の概要です。

なお、令和3年度予算編成におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により市税の減収が見込まれること、また、地方譲与税等その他歳入の減収も見込まれることから、歳入一般財源が減少することを想定し、予算編成に取り組んだ結果、

令和3年度の予算の規模は、

一般会計	1, 446億6, 432万4千円
特別会計	972億8, 685万5千円
公営企業会計	391億6, 620万円
総計	2, 811億1, 737万9千円

で、前年度に対する増減率は、一般会計で3.8%の減、特別会計で1.7%の減、公営企業会計は2.1%の減となり、全体では

2.8%の減となっています。

一般会計の歳出は、新型コロナワクチン接種事業や企業立地促進奨励金事業などが増加となったものの、地方道整備事業をはじめとする投資的経費の平準化を行ったこと、また、和歌山城ホール整備事業、消防活動センター整備事業の減などにより、総額として減額となりました。

次に特別会計では国民健康保険事業や直轄事業用地先行取得事業などで増額となったものの、卸売市場事業で水産棟整備事業の国補正に伴う前倒しによる減、駐車場管理事業で市営北駐車場整備終了による減などの減額要因により、特別会計全体で減額となりました。

また、公営企業会計では、水道事業会計と工業用水道事業会計で増額となりましたが、下水道事業会計では、国補正に伴う事業の前倒しなどによる減で、公営企業会計全体で減額となりました。

今後とも、事務事業の見直しや事務の効率化を進めるとともに、行財政改革を継続的に推進し、規律ある市政運営を行うことで、市民にとって不可欠な行政サービスの安定的な提供に努めてまいります。

この新年度予算を、「暮らしを守り、未来へ希望をつなぐ予算」

と位置付け、盛り込んだ事業を着実に実行することによって、「きらり輝く 元気和歌山市」の実現を目指し、市政運営に全力で取り組んでまいりますので、市民の皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

なお、補正議案の詳細につきましてはこの後、また当初議案の詳細につきましては後日、担当局長から説明させますので、議員の皆様におかれましては、慎重ご審議の上、ご賛同賜りますようよろしくお願い申し上げます。